

「永山まちづくり推進協議会」会議録（令和4年度第2回）

- 日 時 令和4年12月15日（木） 午後6時～午後7時45分
- 場 所 永山公民館 2階 講堂
- 出席者
- ・委員16名（50音順）（欠席者4名）
石本委員，上野委員，葛西委員，紙谷委員，北村委員，桑島委員，
塩尻委員，杉山委員，高橋委員，高山委員，辻委員，土田委員，
豊島委員，松本委員，宮腰委員，村井委員
 - ・林市民生活部長
 - ・事務局職員4名
永山支所長，同副支所長，同主査，永山公民館長
 - ・地域まちづくり課3名
- 会議の公開・非公開 公開
- 傍聴者の数 なし
- 会議資料
- ・会議次第
 - ・令和4年度永山まちづくり実行委員会の予算と活動

※当会議録中では，次のとおり表記する。

- ・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開 会

2 会長あいさつ

第2回の協議会の開催にあたり，会長からあいさつがあった。

3 意見交換

事務局から「地域まちづくり体制の見直しについて」資料に基づき説明があった。

委員からの発言の主なものは次のとおり。

- ・地区の社会福祉協議会の立場でお話すると，地域に住む人は，10年前も今も同じような要望を持っている。また，いろいろなことに参加したいという要望も強いので，地域に住んでいる人の目線で活動しないといけないと思っている。今の協議会の活動は，理解してもらえている部分と，そうでない部分と，2つに分かれていると感じる。地域に住む人の要望を取り入れた活動が必要と思う。
- ・担い手がないとか，市からの下請けみたいにやらされている感じがあるという意見のある地区もあるようだが，永山は自分たちがやろうとしていることに対して賛同している方を集めて実行委員会をやっている。自分たちの住んでいるところをもっと住みよいところになりたい，と言う気持ちで運営したらいいのではないかといつも思っている。
- ・

4 議 事

(1) 及び(2)について事務局から令和4年度永山まちづくり実行委員会の予算執行状況や活動について一括して説明があり、それぞれの近況報告や今後の活動内容などについて説明があり、意見交換を行った。委員の主な発言は次のとおり。

(委員)

これから会議を開催するが、各市民委員会から連絡がどんどん入っており、パトロールの予定が立っている。これから除雪が始まるが、特に交差点や雪出し等注意していきたい。これからもよりよい活動をしていきたいと思っている。

(委員)

学生がいろいろ動いてくれたが、最終的には予定が合わず、人数は集まったが実際に参加できなかった。今後の同行を聞き、どのように進めるか協議し、一緒にやれる体制を作れたらと思っているが、大学はテストがあり、なかなか難しい問題だと思っている。

(委員)

永山第二団地の住民100名以上を対象に、料理研究サークルの学生でメニューを考え、具だくさん豚汁とおにぎりを配付した。食材はお米も含め地元農家のものを中心に選んだ。高齢者のフレイル防止や、引きこもりにならないで顔を出したり集ったりという大きなきっかけになったらよい。学生にとってもこの3年間全くこういった活動ができなかったもので、とても勉強になった。家から出てこられて取りに来られる、御自宅を訪問してお渡しする、2つのパターンに分かれたが、学生が直接渡すことでこの方々がどのように生活されているのかを考えたときに非常に感じることもあり、大きな経験になったのではないか。そのときのアンケートでは、毎月やっていただきたいという方もいたが、年2回はぜひということだったので、また2月により多くの方にお声がけをしていけたらと思っている。

(委員)

是非多くの方に口腔ケアの大切さやお食事を摂るということの大切さを理解していただくことを目的に健康マイレージのチラシを作った。いろいろなサークルで口腔や栄養に関する講義をしたり、サークルに参加できない方にもDVDを渡すなどしている。そして食事とお口の取り組みがどれだけできているかをチェックした後に、協賛の企業の景品の抽選に申し込んでいただくことをやっている。去年は運動に力を入れてきたが、運動に関心を持っている方がとても多かった結果、お口と栄養が大事ということもあり、このような事業にした。

(委員)

ほのぼのバザーを今年も計画していたが、コロナ禍の中ということでメンバーの感染や濃厚接触により話し合いの場を持つことができなかったことから、メンバーの中でも実施が難しいとの話もあり、今年度の開催を中止することになった。ボランティア養成の方も同様に話を進めていくことができていなかったが、先日永嶺高校からボランティアのようないことができないだろうかという話をいただき、地域の困りごとである除雪の活動を提案したところ、前向きに検討していきたいというところで、今、生徒と除雪を必要とする方

のマッチングや準備をしているところである。今後は生徒以外のボランティアの発掘や養成というところを次年度に向けて準備していけたらと思っている。

(委員)

市民委員会ではコロナ禍で2年あまりやれなかった行事を少しずつ、実施しているところ。まだできない、集まらない行事も多々あるが、徐々に進んできたかなという感じである。

(委員)

以前は皆さんと宴会のような形で意見を出し合って語り合うという機会もあったので、できればそういうもっと近い形でお話し合いができると本当にいいなと思っている。どうしてもこういう形になると仰々しい意見しか出しづらいが、もっと身近にソフトな感じでいろんな好き勝手な意見を出していけたらと思っている。次はどうするというのはないのだが、せっかく永山は本当にいろんなものがある、あるわりには私も全然知らないの、掘り出して永山のいいところツアーみたいなものもやったらいいなと思っている。

(委員)

フランクに、気軽に意見が出てくるような場があればという意見があったが本当にそのとおりで、特に若い人たちのアイデアをいろいろと出していけば、出せる場をたくさん供給できればいいのではと思っている。一つは旭川大学が市立になることがすごく大きな転換点であるが、大学が公立化されることでより広いところから学生さんがこの永山に来るということで、この地域にとって大きなインパクトである。大学としてもいろんな地域に出かけて社会経験を積んで欲しいという思いがあり、改めて地域と連携を深めていきたいという思いがあると聞いている。一方、地域側は先ほどから出てきている担い手不足や多世代の交流の実施や、学生の力を借りたいという思いもあるので、学生さんと地域を結びつけるような形というのをこれからもっと具体的に考えていければ思っている。

もう一つの夢だが、市でデータセンターを誘致する活動をしているが、永山にも立派な遊休地があるので、例えば地域の組織としてこれからできる限り自立していく必要もあることから、除雪で出た雪を地元の人で運び込み、データセンターから出た熱を冷やせば冷房代を浮かせることもできるし、コンピュータからの排熱を使って農業やうなぎの養殖をしたり、いろんな考え方ができる。

まちづくり体制の見直しということでは、PTAや町内会に関わっているが、いろんな役職がありすぎて組織が膠着化して人が集まらないのは当然だと思っているので、PTAは来年会長などをいったんなくして、保護者の有志で手を挙げて、会長とか副会長ではないフラットな形で自由活発にできる組織にしようとしている。

あと1点、いろんな実行委員会が活動していて、若者の力を活用している活動もあるが、小学生くらい、もうちょっと小さい子たちを真ん中に考えるような事業があればいいかなと思っており、一度この地域を成長とともに離れたときにいいところで育ったと思ってもらえるためには、子どもたちができるだけ小さな時にいろいろなことを、やりたいと思うことに手を挙げて力を貸してくれる大人がいるんだという体験をできるだけ積めるような場を作れたらと思っている。

(委員)

コロナとの戦いがあったが、市民委員会や地区社協の行事が3つ4つとできるようになってきたが、また感染者が増えて何事もみんな止まってしまった。そういうことで、来年、年明け、なんとかコロナから乗り切って、特に高齢者の楽しみを奪わないでやっていきたいなと思っている。

(委員)

今まで学校の教育体制として、コロナでなかなか制約があったが、今年度ようやくインターンシップで企業に生徒が実習に入れたり、販売会で徐々に数百人のお客様が学校に来られるようになった。本校は出身中学校別で見るとやはり永山地区が一番多いのだが、意外と永山のことを知らないで、このような活動を通じて理解していけたらと思う。

(委員)

コロナ禍で観光客が減る中で年間パスポートの売り上げ枚数が過去最高となり、地元や地域の身近な方に来ていただいて、花が皆さんの健康にも役に立つことができているのかなと感じている。地域の担い手不足とかを聞いていると結局は情報は発信の仕方なので、求めている人に届くように発信されているのかということが今の時代大事なのではないかなと思う。幅広い世代でアプリを使いこなせるので、地域や町内会の情報を市が整備しながら自由に使えるようなことがアプリでできるとある意味いろいろな担い手に届くのではと、話を聞いてて思った。

(委員)

この会のゴールはどこにあるのか。いいまちづくりをする、永山をよくするというゴールなのだろうか。

(会長)

みんな永山を良くしようとか、そういう気持ちで一つになっているのでありますが、ゴールがはっきり「こうだ」というよりは、住んでいる人がすごく「いいね」と思ってもらえればいいのかかなと思っている。

(委員)

ゴールがすごく遠くにあるような気がしてなるので、もっと身近なことを積み重ねていってもいいんじゃないかなと個人的に思っている。

4 閉 会

以 上